

2019年度 琉球弧研究支援 報告書

研究テーマ「久米島の学童保育の必要性」

氏名：小野寺凱士 兼島桃 比嘉涼 與座駿

I. 初めに

今回、私たち松尾ゼミは、『夏休み楽しみ隊』として、久米島の児童を対象に8月19日から22日までの4日間、学童を行ないました。ゼミの活動で、学童保育の児童達と関わっていくなかで、もっと子供達の為になる活動はないかと考えていました。そこでゼミの教員から聞いた久米島の話が今回の活動のきっかけとなりました。現在久米島には、日中保護者が家庭にいない小学生児童に対して、適切な遊びや生活の場をあたえる、学童保育を行っているところがありません。そのため、私達は学童保育がない久米島の児童達のために、短い期間ではありますが、子供達を預かり、勉強や遊ぶための場を作ろうと思いました。また活動を行うことで、子供や保護者にとってどのような影響があったかを確認し、学童保育の必要性などをアンケートにて調査しました。活動の準備は5月から行い、どのような活動を行うのか、また必要な物は何かを話し合いました。普段あまりできないような活動をさせたかった為、調理実習を取り入れ、カレーやうどん作りを行うことにしました。また、8月に活動を行うことが決まっていたので、夏休みの勉強や、工作の手伝いなど行うことにしました。活動を決めた際も、児童達の安全を第一に考え、内容を決めていきました。三年次だけでは人数が足りず、募集をかけ、18名の学生で活動を行いました。今回の活動報告を通して、私たちが学んだことや課題から、久米島で行なった活動や、学童の必要性について知ってもらいたいです。

II. 研究の目的、動機

ゼミの担当教員から、久米島には学童保育を行っている場所がないことを聞いて、ゼミのメンバーで夏休みに学童を開こうと計画を立てました。久米島の子供たちと交流しながら、子供たちの実態や、学童保育の必要性などを知ることを目的として、今回の研究に励みました。

III. 研究方法、地域、期間

アンケート 久米島 8月19日～8月22日

- ①参加者の学年 ②参加理由 ③放課後または休日の過ごし方 ④普段の生活
- ⑤久米島に学童はあったほうが良いか ⑥「夏休み楽しみ隊」はどうだったか
- ⑦参加して変化が見られたか ⑧良かったと思う活動・関わり ⑨今回の活動以外で、今後取り入れたほうが良い活動 ⑩開催時期の希望 ⑪ご意見やご感想

IV. 結果

⑤久米島に学童はあったほうが良いか

はい 23名 いいえ 1名

《理由》▽はい●安心して仕事ができる。また、用事がある時に安心して預けることができる。●仕事がフルタイムのため、放課後自宅に置いておきたくない●通っている学校は小規模なので出来るだけ色々な学校や学年のたくさんの人達と交流して欲しい。●色々な経験をさせたい●学童でみんなと過ごす事で協調性など様々な事が学べる様な気がします●今回の夏休み楽しみ隊の取り組みがとても助かった。「宿題やったー？」ばかりの会話から、子供達の話をやっくり聞ける時間が出来た。●身内がない。仕事をしている。放課後子どもが何をしているのかわからない。●学校が終わってから親が帰ってくるまでの時間、安心して留守番してくれる場所があった方が安心●宿題をみんなでやると、うちでやるより進む。●移住者や親戚がない家庭で仕事をしている場合、子供を預ける先が無いから。●同学年同士ではなく、他学年が居るから上下関係など色々と刺激し合うと思う。後は、親同士の関係も出来ていくのかなと思いました。●転勤とかで赴任されて来ている子供達を預けられなく良く職場に連れて行くよと聞いたりするから●共働きの親が多いと思うので、あった方がいいと思います。それに、広い安全な場所で沢山の人数で出来る遊びをさせてあげたいです。他学年や大人数で遊ばないせいか、遊びを知らないな、遊び方が下手だなと感じる事が多いです。●共働きで宿題など一緒にしてあげる事ができないので、あると助かると思います。●夫婦共働きの家族や、祖父母の支援が受けられない家族が多いと思うから。それと、放課後の子どもたちの居場所がないから。●子供達だけで長時間お留守番をさせたくないから。●共働き世帯が多いため、学力向上にも繋がりそう。●私共のように実家がこちらにある児童は、放課後の見守りの環境があるので、親の方も安心して仕事ができますが、核家族で親戚などもないケースだと、児童自身が帰宅して1人で待っていたり、子供達同士で遊んでいたりと、好きなだけ好きなものを食べていたりなど、心身の安全面を考えるとあった方がいいと思います。●こどもだけの留守番は不安。他学校や異学年交流が出来たり、楽しいプログラムがあったりしそうだから。

▽いいえ●塾にもお金がかかるので、これ以上の出費は難しい。学童より、児童館があると助かる。お金もかからず、大人の監視の目がある程度ある中で、自由に過ごせるので。

V. 考察、分析

保護者へのアンケートの結果から、久米島に学童を求める声が多くあることがわかりました。夏休みを利用して1週間学童を開き、子どもたちと交流しましたが保護者だけではなく、子どもたちからも「また参加したい」などの声も多く聞こえ、私たちも久米島には学童があったほうが良いと思いました。参加理由にもありましたが、共働きの家庭も多い中、現在の久米島には子どもを安心して預けられる場所がなく、困っていることがわかりました。

また、学童を通して他の学校や学年の子どもたちと関わることができます。決して長い期間ではありませんでしたが、子どもたちの心身の成長にも繋げられることができます。

しかし、その反面には家庭の負担問題があります。離島で暮らすことは出費が大きく、学童ではなく児童館を求める声もありました。負担軽減のためにも、助成金などの福祉制度を整える必要があると感じました。

VI. 今後の展望

来年度には久米島にも学童ができる予定なので、子どもたちや保護者の考えが変化するかを、来年度も実際に久米島に行って調査を行いたいです。また、今回は学童だけに焦点を当てましたが、ほかにどのような施設が必要かさらに広い範囲で調査していきたいです。

VII. 終わりに

4月から準備を始め今回の活動を行うに施設を快く使わせて下さった久米島町福祉課の職員の方々、チラシ配布にご協力して頂いた久米島町教育委員会、各学校の先生方、アンケートにご協力して下さった皆さん、参加してくれた子どもたちや保護者の皆さん、集まってくれた後輩の皆さん、今回の活動に協力して下さった全ての方々に改めてお礼申し上げます。

VIII. 参考文献、調査協力

久米島町福祉課、学童に参加した児童、保護者

VIII. 指導教員コメント

4月から問題意識をもって、小学校以外の場所におけるこどもの暮らし、過ごし方、またその影響を受ける子どもたちの発達について学んできました。その中の一つとして琉球弧研究で取り上げた、学童の無い久米島での子どもたちのために夏休みの1週間学童を開催することを目標として、保護者へのニーズ調査を行いました。夏休みの学童は、久米島の子どもたち、保護者、学校関係者から好評で来年度の開催も期待されています。今後、その声を久米島町にも届けたうえで、大学や学生たちと協力して、更なる地域支援ができるようにしていきたいと思います。